

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 2024 FINALIST STORIES



【名称】

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 2024

【主催】

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員会

【パートナー】



【サポーター】

ARC'TERYX、石井スポーツ、カシオ計算機株式会社、キャンパルジャパン株式会社、ココヘリ、SATOMACHI、秀岳荘、CHUMS、パタゴニア日本支社、株式会社前垣、mont-bell

【募集期間】

2023年10月23日(月)～11月26日(日)

【表彰式】

2024年3月13日(水)

【スペシャルアドバイザー】

岩瀬 直樹 (軽井沢風越学園 校長・園長)、佐藤 初雄 (NPO 法人自然体験活動推進協議会 代表理事)、澁澤 寿一 (NPO 法人共存の森ネットワーク 理事長)、速水 亨 (速水林業 代表 / 株式会社森林再生システム 代表取締役 / FSC ジャパン副代表)、星野 敏男 (明治大学 名誉教授)、二宮 かつおる (NPO 法人日本で最も美しい村連合 副会長)、三浦 雄一郎 (プロスキーヤー / 冒険家)

【選考委員長】

竹内 洋岳 (プロ登山家 / 立正大学 客員教授 / 株式会社ハニーコミュニケーションズ所属)

【選考委員】

指出一正 (株式会社ソトコト・プラネット 代表取締役 / 「ソトコト」編集長)、曾根原 久司 (NPO 法人えがおつなげて 代表理事)、高野 孝子 (NPO 法人エコプラス 代表理事 / 早稲田大学 教授 / 立教大学 客員教授)、成田 裕 (NPO 法人ガイア自然学校 代表 / 一般社団法人日本アウトドアネットワーク 代表理事)、野口 和行 (慶應義塾大学 教授)



栗原 豊 一般社団法人三陸駒舎 共同創設者・理事
武宮 敬介 自然体験村 代表 / 日本ジョセササイズ協会 南魚沼支部長
川口 真矢 NPO 法人 Earth Communication 代表理事
佐藤 伸幸 ヨロン島エコツアーガイド連絡協議会 / 与論島観光 エコツアーガイド 代表
武宮 敬介 自然体験村 代表 / 日本ジョセササイズ協会南魚沼支部長
真野 博 城西大学 教授 / 高麗川かわがール 代表
岩野 萌 NPO 法人ガイア自然学校 Chief Operating Officer
花嶋 桃子 NPO 法人千葉自然学校職員 / 南房総市大房岬自然の家 副所長

CONTACT

お問い合わせ先

ジャパンアウトドアリーダーズアワード
JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員会 事務局

ADDRESS 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 NPO法人自然体験活動推進協議会内

MAIL jola@cone.jp TEL 03-6407-8240 WEB <http://jola-award.jp>



SOCIAL OUTDOOR

ソーシャルアウトドア®



人も自然もいろとりどりで
すこやかな社会をつくり次世代へ渡したい

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD (JOLA) は
日本が誇るべき自然環境を通して
人づくり、地域づくりに活躍してきた
挑戦者たちをたたえています。

そのリーダーたちの活躍に光を当てることが
教育と生き方のつながりを編集して「自然に学ぶ人」を育み、
自然体な暮らしができる
地域づくりのサポートになると考えています。

そしてこのようなアウトドアのあり方を
私たちは「ソーシャルアウトドア」と名付けました。

消費するレジャーとしてのアウトドアだけでなく、
社会をより豊かにする機会として。
また自然体験やアクティビティだけでなく、
農林水産業、伝統文化なども含み、
関係者・当事者だけでなく、
多様な同志が個人ベースで参画し、
社会課題をみんなで解決していく。

JOLAは「ソーシャルアウトドア®」をハブにして
地域や世代や業種をつなぐすべてのの方々を応援します。

このBookでは2024年に受賞されたの方々を紹介します。



沖縄県にて「Ocean to All」を
テーマに人と海のかけはしになって
海の体験を多くの人に
ツアーから学校教育まで



愛媛県のサッカークラブの
教育部門である野外学校で
大自然をフィールドに行う
将来のリーダー育成に活躍



岐阜県の長良川漁師。
木造和船と伝統漁法を継承し
川魚の6次産業化と川の文化の
伝え手として活躍



岐阜県の公立専修学校にて
地域開放型の
森林環境教育施設の企画運営と
学生の育成に奮闘

あなたの活動を みんなの活動にする SOLAというアプローチ

APPROACH

日本各地のフィールドで活躍している方々を表彰する中で、
単純な意味での「アウトドア（アクティビティやキャンプなど）」の枠に
収まり切れない方々が多くいることに気付きました。

伝統文化の継承、地域文化の再評価、
社会課題解決などに取り組む「アウトドア」。
人づくりが地域づくりにつながる機会としてのアウトドア。
学校教育で不足しがちな感性や身体性を
補完する場としてのアウトドア。

Social = 社会
Outdoor = 自然
Local = 地元
Associate = 仲間

ソーシャルアウトドアを
推し進める
4つのキーワード

生き方を学び、ローカルに学び、みんなと学ぶ。
これこそ私たちが大切にしなければならない価値、
ソーシャルアウトドアではないか。

それらを推し進めるため、
「社会」の既存の仕組みを捉え直すために
「自然」の中での活動や楽しみを通して
「地元」でがんばる人々と学び合いながら
「仲間」との絆を深め次世代の人づくりをする
そんなコミュニティを目指します。

JOLAのソーシャルアウトドア プラットフォーム

SOCIAL OUTDOOR PLATFORM

JOLAはソーシャルアウトドアを掲げ、アワード×メディア×コミュニティの運営を通じ、
教育と生き方のつながりを編集し直すことで、人づくり・地域づくりのサポートをしています。

ソーシャルアウトドア プラットフォーム JOLA

選考委員

アワード

JOLA ルーブリックを起点に
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD

ファイナリスト



全国のアウトドアフィールドで指導する指導者およそ 23 万人
を対象にした表彰。未来を創造する力を育み、心身の良質
な成長の機会を作る、ソーシャルアウトドアリーダーの顕彰。

運営委員 / 事務局

アンバサダー



各地でソーシャルアウトドアに取り組み、それぞれの課題を
持つ多様な仲間と、オフラインやオンラインで集い、互いに
助け合い学び合う場。

メディア

取り上げる・つなげる・見出す

SOLA

(Web & フリーペーパー)



ソーシャルアウトドア関連ニュース、アワード受賞者や関係者
の記事、SOLA編集部のオリジナル記事・動画コンテンツを
リトルフリーペーパーやWEBを通じて展開。

パートナー / サポーター

スペシャルアドバイザー

コミュニティ

あなたの課題をみんなの課題に

SOLA CLUB

個人会員 / 法人会員

ループリック

Rubric

JOLAでは、能力評価に使用される「ループリック評価」を採用し、審査を行っています。4つの評価基準を決め、さらに細分化し、評価項目を作成し、1～5の評価尺度に分け、評価表を作成しています。(以下 JOLA ループリック)

応募者は JOLA ループリックをもとにエントリーシートを記入します。その後、応募者のエントリーシートを複数の委員で評価し、書類選考を進めます。JOLA ループリックによって情報が共有されて、応募者へのフィードバックも行えるので、応募者の今後のスキルアップにつながります。日本におけるアウトドアでの人づくりの基準になるよう、毎年改訂を行い、進化させていきます。

4つの評価基準

1

未来につながる人づくり

直接体験 & 体験からの学び・
アウトドアフィールドの活用・継続性

2

人づくりの独自性

考え方・哲学・
キャラクター・実践方法

3

社会性

コラボレーション・発信・
社会への貢献

4

人づくりの技

ソフトスキル・ハードスキル・資料(道具)の
オリジナリティ・場や資源の演出・
安全に対する考えと取り組み

3つの特徴

1

アウトドアでの 人づくりの評価基準

幅広いアウトドアでの人づくりを
評価する基準です。

2

応募者の ふりかえりにも活用

希望者には評価のフィードバックを行っており、
各自のふりかえりにも活用してもらえます。

3

自身の能力を可視化

主観になりがちな「アウトドアでの人づくりの
評価」が JOLA ループリックによる採点で客観
的に可視化・共有化されます。

JOLA2024 総括 ～選考にあたって～

Message from the selection committee

2024年のアワードは、北海道から沖縄まで、全国から51名のエントリーがありました。

下記の流れで審査及び最終選考を行いました。

一次審査

1

1名のエントリーに対して、運営委員から3名を選出し、JOLA ループリックの各項目について5点満点で審査を行いました。

2

運営委員会で、3名の審査得点の合計点で高い得点を得た9名を選出しました。

3

今後特に活躍が期待される上位2名を選出しました。



大賞

黍原 豊 Kibihara Yutaka

一般社団法人三陸駒舎 共同創設者・理事



特別賞

鹿谷 麻夕 Shikatan Mayu

しかたに自然案内 代表



優秀賞

川口 真矢 Kawaguchi Michiya

NPO 法人 Earth Communication 代表理事



優秀賞

佐藤 伸幸 Sato Nobuyuki

ヨロン鳥エコツアーガイド連絡協議会 / 与論島観光エコツアーガイド 代表



優秀賞

武宮 敬介 Takemiya Keisuke

自然体験村 代表 / 日本ジョセササイズ協会 南魚沼支部長



優秀賞

真野 博 Mano Hiroshi

城西大学 教授 / 高麗川かわガール 代表

最終選考

1

今後活躍が期待される2名のノミネートをもとに、そのまま奨励賞として選出しました。

2

ノミネート9名のうち、6名を優秀賞として選出しました。

3

優秀賞の中から、大賞1名、特別賞1名を選出しました。

岩手県釜石市の築100年を超える古民家をベースに馬とのかかわりを手法とした人づくりを実践。馬とのやり取りを通して、自分自身を見つめ、成長を促していく。人間としての土台作りを軸に置いているその姿勢、考え方や哲学、地域とのかかわりが JOLA の理念に最も合致すると考え大賞に選出しました。

沖縄の地で、「美しく豊かで健やかな海を次世代に残していく」ため、自然観察会をベースとした環境教育を実践。専門的な知識に裏付けられた質の高い活動、ポジティブな思考で地域に寄り添い、地域の人の環境保全のアクションを支える姿勢を高く評価し、特別賞に選出しました。

静岡県御前崎市で自然体験と地域資源の掛け合わせで子供たちの体験の機会を実践。自然体験の教育力が理解されないスタートから尽力し、現在では市、県、国土交通省等と一緒に海や里山での活動を実施。地域のつながりを大切に人づくりの場を創出しています。

鹿児島県与論島において、島の伝統的文化を伝え、人と自然の関わりを見つめ直すガイドを続ける佐藤さん。その、「活動から参み出る覚悟」「世代、考え、価値観の違いに向き合い、地域の仲間と関係を創り続けるプロセス」が、JOLA の価値観と強く繋がると考え、優秀賞に選出いたしました。

新潟県南魚沼における、自然体験キャンプの運営。学生ボランティアのコミュニティ運営。ネットワークを活かした若手の育成研修。それぞれの活動の「継続性」や「影響力」を評価いたしました。また、継続性や影響力に繋がる「キャラクター」「発想の独自性」を評価し、優秀賞に選出いたしました。

埼玉県を流れる高麗川を中心に荒川水系の河川を活用し、老若男女を問わず、川漁、リバーウオーキング、ネイチャーウォッチングの体験を通じた環境教育と食育を実践。アカデミックな広がりや伝統を大切に地域連携、コラボレーションにより場の創出と人づくりに尽力されています。

2024
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
大賞
Grand Award

PROFILE



黍原 豊

Kibihara Yutaka

1977年愛知県生まれ。岩手大学（森林生産学）在学中に、自然保護や子どもキャンプのボランティアに関わり、卒業後は、パーマカルチャーや自然エネルギー等をテーマにした「森と風のがっこう」や岩手県立児童館のプレーリーダーを経て、2013年から釜石市にて、復興まちづくりの一環で子どもの居場所づくり等に携わる。地域の馬文化再生と継続的な子ども支援のために2015年4月に三陸駒舎を設立。

一般社団法人三陸駒舎 共同創設者・理事
<https://kamakoma.org/>

困難を抱える
子ども達へ
馬の力を届ける



【上段左】子どもたちと牧草を与える 【上段右】雪の中の乗馬 【中段】馬に乗って地域を散策
【下段左】拠点は築100年の古民家 【下段中央】一輪車で馬のウンチを運ぶ 【下段右】馬の背中のぬくもりを味わう

東日本大震災で母を亡くし児童養護施設にもいた高学年の子。乗馬の後、時々馬の背中に顔をうずめ、満たされた表情をしていました。馬は、何も言わずにそのままを受け止めてくれます。馬が生きていくためには、お世話も必要。エサやりやウンチ掃除なども取り組みます。「ケアされる」という受け身ではなく、自ら働きかけ「ケアをする」。その中で、他者（馬・自然）から必要とされ、居場所が形づくられ、身体の内から力が湧いてきます。岩手県釜石

市で、築100年を越える古民家で馬3頭と一緒に暮らしながら、このような日々を重ねています。この地域では、馬で畑を耕したり、馬で山から木を運び出したり、4-50年前まで、馬が当たり前でした。三陸駒舎は、地域の馬文化を再生し、馬との暮らしをベースにしたホースセラピーを被災地の子どものために届けることを目的に2015年に設立しました。2017年には、障がいのある子ども対象の事業も開始しました。現在では、市内外から、遠くは

片道1時間半かけて毎月延200名ほどが来ています。ひとり親・貧困世帯・児童相談所が関わる世帯など様々な背景や困難を抱える子ども達です。家で十分な愛情を受け取ることが難しい子もいます。冒頭の高学年の子が馬の背中に安らぎを感じたように、馬や自然から得られるモノは見返りを求めない贈与で、親から注がれる愛情と同じ力を持っています。子ども達が幸せに暮らせる社会づくりに向けて、馬や自然の力を活かしていきます。

2024
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
特別賞
Special Award

PROFILE



鹿谷 麻夕
Shikatani Mayu

東京出身。大学卒業・就職を経て、生命が生まれた海を学びに1993年沖縄へ。琉球大学理学部卒業、東京大学大学院中退。2003年よりしかたに自然案内として、県内の市民や学校を対象に海の自然体験や保全活動と環境教育を行う。サンゴ礁・海草藻場・干潟に暮らす生きものと自然、海ごみや温暖化をテーマにプログラムや教材作りを行っている。2022年度沖縄県環境保全功労者。

しかたに自然案内 代表
<https://shikatani.net/>

しかたに自然案内のミッションは「沖縄の海の自然を人々に伝え、海と人々をより良い形で繋ぎ直すこと、それにより、美しく豊かで健やかな海を次世代に残していくこと」です。1998年、世界的なサンゴの白化により、沖縄の浅瀬のサンゴや生きものたちが激減しました。同時に、一般社会の中では、サンゴのことも海の変化もあまり理解されていないということにも気づきました。そこで、海洋生物学を学んだ私とカニ類の研究をしていた夫と二人で海の自然観察と環境教育を始めました。

私たちの主な活動対象は、沖縄の言葉で「イノー」と呼ばれるサンゴ礁の干潟や浅瀬と、そこに住む地域の人々です。海に囲まれた沖縄ですが、海は危ない場所とされ、海の自然や生きものに触れる機会が少なくなっています。そして社会にも学校教育にも、海やサンゴ礁を学ぶ機会がありません。また、赤土汚染や埋立計画などもある沖縄で、地域の自然を本当に守れるのはどこかの専門家ではありません。そこに生まれ育ち、昔からその自然を見て、見守る人、何かあれば変化に気づける人が地域にもっと必要だと感じました。私たちは地域の人々が海を体験し、海を理解し、海を好きになって、やがて守っていこうと思う人々を増やしたい、そして100年後もサンゴの豊かな海を沖縄に残したいという思いで、海を伝える活動をこれからも続けていこうと思います。

サンゴの海を100年後の
子どもたちに残したい



【上段】ウニ落としだよ！ 【中段左】サンゴ礁の記録を残す 【中段右】市民向けにサンゴ礁のワークショップ
【下段左】本物の漂着物を使って海ごみの出前授業 【下段右】みんなでビーチクリーン



2024
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
優秀賞
Excellence Award

PROFILE



川口 真矢

Kawaguchi Michiya

静岡県御前崎市生まれ。二人の祖父に連れられ、幼少期から海や川、森、山で遊び、自然の楽しさと厳しさを学ぶ。『自然の中で遊びを教えられる先生になりたい』という夢を持つが、現実には甘くなく挫折。仕事として発達障害を抱える子どもたちの療育に携わるなかで、遊びや体験を通して成長していく子どもたちの姿を間近にし、改めて学生時代に学んでいた自然体験活動について学びを深める。2016年、任意団体を立ち上げ、2019年度よりNPO法人として活動に取り組む。

NPO法人 Earth Communication 代表理事

<https://earth-commu.jimdofree.com/>

今できることをひとつずつ

「自然の中で遊ぶ」ということは「地球とのコミュニケーション」の一つでもあるのではないかと考え、NPO法人 Earth Communication を設立。海をはじめとする地域の自然の中で思い切り身体を使って遊び、自然との関わりを楽しむ！そして遊びを通して地域の自然を学ぶ！地域のため、生きものたちのために、自然や環境を守りたい！という気持ちが芽生えることを信じ、地元御前崎の海や里山を拠点に自然体験活動に取り組んでいます。一方、豊かな自然が残る地方の町では、豊かな自然が身近にあるからこそこの課題があると感じます。そこから、自然と触れ合う「きっかけ」づくりも重要であると考え、行政機関や地域の小学校などと連携・協働し体験の機会づくりにも取り組んでいます。また、御前崎市にある久々生海岸^{くびしろう}の保全活動にも取り組んでいます。港の造成と共に環境変化を繰り返してきたこの海岸は、アマモやコアマモが自生・群生し、干潟のような海岸環境が広がっています。太平洋に面し、波風の強い御前崎の海としてはとても珍しく、全国的にも貴重です。アマモ場特有の生きものたちが多くいる一方で海洋ゴミの溜まり場にもなっています。この海岸の特性を活かし、体験的に学ぶことができる「静岡県を代表する海辺の環境学習フィールド」として地域の方々や行政機関、大学や研究機関の皆さんと協働し、生きもの調査や保全活動に取り組んでいます。多くの方にとって、自然の中で遊ぶこと・自然と共生することが当たり前になる社会を目指し、これからも活動に取り組んでいます。

2024
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
優秀賞
Excellence Award

PROFILE



佐藤 伸幸

Sato Nobuyuki

宮城県生まれ。大学にて異文化コミュニケーションを学ぶ。5年間の中国留学、8年間の社会人経験を経て、2016年4月地域おこし協力隊として与論島に家族で移住。島の薬草を研究する山悦子さんと出会い、書籍「与論島の山さん」の制作に関わる。現在はエコツアーガイドの傍ら、島の薬草を軸にしたカフェ「薬草カフェピクニック」と宿泊施設「百合ヶ浜ビーチハウス」を夫婦で運営しています。

ヨロン島エコツアーガイド連絡協議会

<https://yoronecotour.jimdofree.com/>

与論島観光エコツアーガイド 代表



【左】奄美群島国立公園 PR 動画 【右上】 山さんと制作した書籍 【右下】 サトウキビを食べるボランティア

島人から自然と共生し 生きる力を学ぶ

「都会ではあまり意識しないけど、島では五感をフルに使い自然を意識しないと、うまく暮らしていけないんです。」島に移住した友人が私に話してくれた言葉です。与論島は鹿児島県最南端にある周囲 23 キロの小さな島です。主に夏場をメインに、百合ヶ浜観光とマリンスポーツも有名ですが、陸域にも沢山の魅力があります。島民は1960年代頃まで自分たちの衣食住を自給自足する暮らしを行っていて、その知恵が生活の中に根付いています。2017年3月与論島を含む奄美群島は希少な動植物や生態系等の自然環境だけではなく、自然と共生してきた暮らしと伝統文化を保護する日本初の国立公園として指定を受けました。島の先輩方達は自然を利用して遊ぶ、暮らしに活かす知恵を沢山持っている先生です。聞き取りを行いながら、観光 PR 動画や書籍の制作に関わり、島全体をフィールドにした「初めて島を訪れた観光客が、何年もその島に住んだように感じられる」エコツアーガイドを行っています。また島外のNPO 法人と農家さんと連携し、冬場を利用して9泊10日の援農ボランティアの受け入れも行っています。これらのプログラムをきっかけに何度も島に通い、最終的に島に移住する方もいます。今後は更なる交流人口拡大を目標に、都会の若者を対象に島に長期滞在しながら生きる力を学ぶプログラムとその受け皿づくりの準備を進めています。



2024
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
優秀賞
Excellence Award

PROFILE



真野 博
Mano Hiroshi

新潟生まれ。高校生時代は登山部に所属。東京農業大学で学び、博士（農芸化学）を取得。現在は城西大学薬学部医療栄養学科で生物学、食品化学、食品機能学等を担当。高麗川かわガールや高麗川伝統鮎投網漁保存会を主宰し、ホトケドジョウ調査会、荒川流域ネットワーク等の活動にも参加。学生達をまきこんで、食物連鎖、生物多様性をテーマに、川をフィールドとした環境教育と食育を実践中。

城西大学 教授
高麗川かわガール 代表

たくさんの引き出しに
サプライズギフトを

豪雪地南魚沼で行うキャンプは、夏は12泊などの長期キャンプ、冬は胸まで埋まる雪で遊ぶキャンプ。どちらも極力プログラムは与えない。自分のやりたい事だからこそ熱中できるし、その為には他の事も頑張れる。自分の好きな事に取り組める非日常の体験の中で、何度でもチャレンジができるたくさんの時間の中で子ども達は変化をしていきます。それがたくさんの引き出しとなり、困った時の助けとなります。この先「そういえばあの時に」という時に開く「サプライズギフト」をたくさん贈りたい。その為の種まきをしています。必要なその時に、南魚沼の景色と仲間の顔が思い出される、そんな経験をたくさんできる活動をこれからも進めていきます。そして冬には3mを超える雪が積もり、多くの人が雪にネガティブになっています。除雪という地域課題をポジティブに変えてくれる仕掛けとしてジョセササイズを広めています。「除雪は労働じゃない。エクササイズなんだ」と考えて雪国の大変さをちょっとポジティブに変えていきます。東京から2時間程度の田舎では、何かひとつではなく、色々な事ができる事が重要です。ここで誰と何をしたのかを大切に、訪れた人がまた来たいと思うような、愛着のある場所となる南魚沼のコーディネート体験してみませんか。

2024
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
優秀賞
Excellence Award

PROFILE



武宮 敬介
Takemiya Keisuke

東京生まれ。大学生の時に友達の子どもキャンプに魅せられ人生の進路を大幅に変更。大学卒業後10年間通い続けた南魚沼市に移住をし、観光協会職員として自然体験と観光を中心にコーディネーターとして活動。2021年に独立し自然体験村を設立。南魚沼で20年間活動してきた経験をもとに、子どもキャンプの運営、指導者育成、豪雪地の除雪が楽しくなる仕組みづくりなど、自然体験から得たマイルドで地方を盛り上げるべく奮闘中。

自然体験村 代表
<https://taiken-mura.blogspot.com/>
日本ジョセササイズ協会 南魚沼支部長



[左] 南魚沼春の風物詩「しみわたり」 [右上] 体験村のリーダーたち [右下] ジョセササイズ

自分で「とって、たべて」実感する
自然の大切さ

川で美化活動（リバーコーミング）、ネイチャーウォッチング、食育活動を行う「高麗川かわガール」を2013年に城西大学で発足させました。現在では、近隣の方々も活動に加わっています。学生たちは、「環境と食と健康」に注目しながら実践しながら「社会人基礎力（アクション・シンキング・チームワーク）」を身につけていきます。所属する多くの大学院生は管理栄養士であることから、アユなどの魚介類に着目し、埼玉県ときがわ町と連携し魚食推進プロジェクトにまで発展させています。高麗川かわガールのネイチャーウォッチングは、哺乳類、鳥類、魚類、両生類、昆虫類の生物調査に発展しました。希少生物の分布や外来生物の生態を調べ、論文発表するとともに希少生物の保護活動も行っています。高麗川かわガールでの取組は、荒川流域ネットワーク、ホトケドジョウ調査会、高麗川伝統鮎投網漁保存会、飯能エコツアーなどの活動に繋がっています。アユ地引網体験やエコツアー（リバーウォーキング）を通じて、自然の素晴らしさ、川や水の重要性を実感してくれる人を増やしていきたいと思っています。最近では卒業生が、自分の子どもを連れて、川のイベントに参加することもあり、好循環を実感しています。それが「安全で楽しい体験ができる川」、「人間の暮らしと自然が調和した川」を増やしてくれると確信しています。

2024
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
奨励賞
Incentive Award

PROFILE



岩野 萌
Iwano Moe

東京都立川市出身。「幸町ジュニアリーダーズクラブ」「室戸ボランティアリーダー」にて10年間キャンプリーダー活動に情熱を注ぐ。2017年にNPO法人ガイア自然学校に就職し、子どもキャンプ、大学生リーダー育成、森のようちえんなど、年間約50プログラムでディレクターを務める。自然を通して老若男女さまざまな人の「心の成長」を支え、寄り添い、導く。キャンプファイヤーが大好き。

NPO法人ガイア自然学校
Chief Operating Officer
<https://gaia-natureschool.com/>

キャンプで「心の大冒険」を

私が目指すキャンプは「心が大冒険する」キャンプ。上手くなくても、キレイじゃなくても、少し危なくても、一生懸命になるからこそ、子どもも大学生ボランティアリーダーも心が大きく動きます。雨が続いたキャンプの野外炊事。まずはブルーシートとロープを駆使した屋根づくりから。できあがっても完璧に雨風を凌げるわけではないので、雨が吹き込む中での火付けは一苦勞。「雨の中がんばってつくれた!」と達成感に満ちている子、「こんな雨でどうしてやらなきゃいけないの!」と投げ出してテントにこもる子…晴れている日にはなかなか見られない、悲喜交々な空気が漂います。そんな子どもたちの様子と同様に、リーダーたちの夜のふりかえり時間も悲喜交々。リーダーがあればこれお世話すれば、質の高い屋根を作れるし、火付けもスムーズです。だけど、自分で頑張ったからこそ、嬉しくも悔しくもなれる。こんな心の大冒険が、豊かな心を育むのです。

近頃は平日通園型森のようちえんのディレクターも務めることに。私の世界を広げてくれたのは、親子クラスの母たちの存在でした。キャンプで大事にしてきた「心が大きく動く体験」は、母にも必要なことではないか。「親」としてどうあるべきかと葛藤する母たちの姿からそう気づきました。“大人相手”だからこそ、より洗練された力が要求される日々。私も心を冒険させながら、まだまだ成長していきます!



2024
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
奨励賞
Incentive Award

PROFILE



花嶋 桃子
Hanashima Momoko

茨城県出身。身体を動かすことが大好きで、外遊びに明け暮れる幼少期を過ごす。千葉大学教育学部スポーツ科学課程に入学し、スポーツトレーナーを目指そうとしていた矢先、「野外活動」実習に衝撃を受け、いつの間にか野外教育の道へ。NPO法人千葉自然学校に就職し、現在に至る。毎日南房総の海を眺め癒され、多くの方々に自然の魅力を届けるべく奮闘中。サッカーとジブリと水鳥が好き。

NPO法人千葉自然学校 職員
南房総市大房岬自然の家 副所長

「誰かの〇〇したい」を形にする。
それが私の仕事。

南房総・大房岬は房総半島南端に位置し、自然環境に恵まれた場所です。年間2万人以上の人々が、この地を訪れます。学校行事、研修、旅行…理由は様々ですが、自然を求め、「〇〇したい」という思いを胸にやって来ます。私の仕事は、それを形にすることです。「生き物の観察をしたい」「たき火をしたい」「自然に癒されたい」「学校行事だから」「とりあえず環境保全の活動をしたい」など、具体的なことから抽象的なものまで。モチベーションも様々。ですから、その先にいる人たちのことを想像します。言われた通りではなく、より良くするためには?…と、対話しながら一緒に進め、できなければ地域の仲間に協力を仰ぐ。そうして「体験の場」を創り出していきます。訪れる方の大半が「非日常の自然体験」を求めています。その体験が最高のものになるように全力でサポートします。一方で「日常の中に自然がある」ということも伝えたいです。「道端に咲くスミレの可憐さ」「海と自分の生活のつながり」「刃物を扱う、火を焚くことは人間にとって最大の暮らしの知恵」「夜空に輝く星の美しさ」…。そして、「やってみて楽しかった」が「できるようになった」に変わるきっかけを与えられるよう、自然と暮らしの結びつきについて伝え、訪れた人々の毎日が少しでも豊かになればと願っています。



【左】大人こそ思いきり泥遊び 【右上】愛するGリーダーたち 【右下】親子クラスに通うお母さんたち

JOLA2024 表彰式レポート

JOLA2024 ceremony report

JOLA2024 受賞者記念撮影 [左から]

【優秀賞】佐藤 伸幸 【優秀賞】川口 真矢 【優秀賞】武宮 敬介 【優秀賞】鹿谷 麻夕
【大賞】黍原 豊 【優秀賞】真野 博 【奨励賞】岩野 萌 【奨励賞】花嶋 桃子



2024年3月13日(水)16時から、東京都渋谷区にある国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟で表彰式が行われました。受賞関係者やサポーターなど70名ほどの参加者が集まり、久しぶりの対面の表彰式となりました。

大賞受賞者のコメント



黍原 豊さん

一般社団法人三陸駒舎 共同創設者・理事

普段、釜石市でウマ3頭と暮らし、子どものセラピーをしています。ウマを介していろいろな出会いをしており、自分自身もその中で成長してきました。エントリーシートを書く中でこれまでの活動をふりかえることができ、出会った人々へ感謝をしています。

三陸駒舎には、苦しい立場の子ども達が来ますが、人間ではできないことが、ウマのおかげでできていることがあります。今後も自分の経験を伝えていきたいと考えています。大賞をいただけるとは思っていませんでした。妻に支えられてきました。家族に感謝したい気持ちです。1人の男の子のエピソードをお話します。この子は、第1号で三陸駒舎に

来てくれました。当時は小学生で今は高校生です。コミュニケーションが苦手な子でしたが、ソーシャルワーカーの紹介でやって来ました。当初はエネルギーをうまく使えないことがありましたが、次第にいろいろな活動をするようになりました。親御さんからは「息子は自閉症で遊べないと思っていましたが、三駒さんは障がい忘れさせてくれる」という手紙をもらいました。ウマや自然は平等に接してくれます。差別を取り去ってくれます。今は戦争や格差がある社会ですが、ソーシャル・アウトドアで社会を解決できることができると考えています。多くの人に感謝しています。



JOLA Finalist 2017

里山の生態系を、
地域の人々と学びながら守る



大賞 北海道、国内

白川 勝信 Katsunobu Shirakawa
NPO法人ochibo 理事長

環境を意識した主体的な
協働による人づくり



特別賞 広島県

河野 宏樹 Hiroki Kono
環境教育事務所 Leaf 代表 /
NPO法人これからの学びネットワーク 代表理事

職人的な自給自足の暮らしから、
「生きる技」を伝える



特別賞 京都府南丹市美山町

藤原 誉 Homaru Fujiwara
合同会社田歌舎 代表

「自然と暮らし」の場がもつ
教育効果を引き出す



特別賞 新潟県南魚沼市を含め、地球上各地

高野 孝子 Takako Takano
NPO 法人エコプラス 代表理事 /
早稲田大学 教授 / 立教大学 客員教授

海と森をつなぎ、
体験から本質を学ぶ



特別賞 宮城県気仙沼市

畠山 信 Makoto Hatakeyama
NPO 法人森は海の恋人 副理事長

しまなみ発、みえないものを伝える
インタープリターを増やす



優秀賞 愛媛県今治市

菊間 彰 Akira Kikuma
一般社団法人をかしや 代表理事

全感覚を開放し、
「生き活きる知恵」を得る



優秀賞 福井県越前市

田中 謙次 Kenji Tanaka
一般社団法人環境文化研究所 代表理事

大自然の厳しさにチームで向き合い、
若手を育てる



優秀賞 群馬県利根郡みなかみ町

田中 正人 Masato Tanaka
アドベンチャーレーサー

研究から見た環境教育の重要性と
棚田での学びの場づくり



優秀賞 兵庫県神崎郡市川町

永菅 裕一 Yuichi Nagasuga
NPO 法人棚田 LOVER'S 理事長

自然の中に身を置く方法を
ネイチャーファシリテーターとしてサポート



優秀賞 東京都渋谷区

長谷部 雅一 Masakazu Hasebe
アウトドアプロデューサー・ネイチャーイン
タープリター

JOLA Finalist 2018

自然体験型のフリースクールで、
子どもの主体的な学びを支える



大賞 沖縄県読谷村

小倉 宏樹 Hiroki Ogura
NPO 法人よみたん自然学校 代表理事

森のようちえん・オルタナティブスクールを
主宰しながら、子育て親育ちの仲間を全国に!



特別賞 岐阜県多治見市

浅井 智子 Tomoko Asai
自然育児 森のわらべ多治見園 園長 /
母子の幸せ応援団〜ひなたぼっこ〜 代表

農村から世界へ。
自然に暮らすビックマザーを目指して



特別賞 熊本県阿蘇郡南阿蘇村

大津 愛梨 Eri Otsu
O2Farm 共同代表 /
NPO 法人田舎のヒロインズ 理事長

仲間づくり& 地域連携で支えあい、
自然に感謝する人づくり



優秀賞 沖縄県名護市真喜屋

小林 政文 Masafumi Kobayashi
ホールアース自然学校沖縄校 /
がじゅまる自然学校 代表

森づくりの1ターンだからこそ、
都市と田舎をつなぎたい



優秀賞 山梨県上野原市・小菅村・丹波山村

中田 無双 Musou Nakada
北都留森林組合 参事 / 森林インストラク
ター / NPO 法人多摩源流こすげ 副代表
理事

伊豆の自然体験事業
ビーチグラスを使った環境活動



優秀賞 静岡県賀茂郡南伊豆町

堀 直也 Naoya Hori
エコサファー 代表 /
ビーチマネー 事務局長

都市のビオトープから、
日常的な自然のストーリーを紡ぐ



優秀賞 関東

三森 典彰 Noriaki Mitsumori
株式会社 BiotopGuild 代表取締役 /
Forestthree 代表 / 東京環境工科専門学校
非常勤講師

全世代が自然へ。
みんなでつくる「持続する社会」



優秀賞 北海道

白川 美穂 Miho Shirakawa
NPO 法人ochibo

JOLA Finalist 2019

森と子どもをつなぎたい
ちょっと陽気な原始人



大賞 岐阜県

萩原・ナバ・裕作 Yusaku Nava Hagiwara

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 /
野外自主保育「森のたんごむし」言い出しっぺ

ふるさとへの想いをつなぐ場に



特別賞 広島県

浦田 愛 Ai Urata

NPO 法人ほしはら山のがっこう 副理事長・
事務局長

人が森をつくるのではなく、
森が人をつくる。



特別賞 神奈川県

宮村 連理 Renri Miyamura

NPO 法人緑のダム北相模 副理事長 /
東京学芸大学附属小金井中学校 教諭

海に学べ、森に学べ！
ヒトから学べ、自ら学べ！を胸に14年。



優秀賞 千葉県

神保 清司 Kiyoshi Jinbo

NPO 法人千葉自然学校 事業部長 兼 南房
総市大房岬自然の家 所長 / NPO 法人海に
学ぶ体験活動協議会 (CNAC) 副代表理事

減災教育を通じた
自ら考えて行動出来る人作り



優秀賞 全国・大阪府

片山 誠 Makoto Katayama

一般社団法人72時間サバイバル教育協会
代表理事 / 株式会社ココロ 代表取締役 /
ジャパンキッズプロジェクト 発起人

仲間と共に、指導者養成と
より良い社会の実現へ



優秀賞 関東・山梨県・長野県・静岡県

原田 順一 Junichi Harada

みんなのアウトドア 代表 / 一般社団法人
日本アウトドアネットワーク 事務局長

街の中でも感性を豊かに、
表現する人になろう



優秀賞 大阪府

中根 佳江 Yoshie Nakane

公益社団法人日本ガールスカウト日本連盟
ガールスカウトトレーナー /
千里金蘭大学 講師

子ども達の能力を信じ、
一緒に楽しむ



優秀賞 長野県

松場 省吾 Shougo Matsuba

NPO 法人信州まつもと山岳ガイド協会やまた
み 理事 / やまたみキッズ登山クラブ リーダー

若手だからこそ、
全力で未来を創りたい



U30賞 北海道・関西

徳田 真彦 Masahiko Tokuda

大阪体育大学 講師

JOLA Finalist 2020

川漁師×SDGs
日本風土の最高傑作“天然鮎”は語る



大賞 岐阜県

平工 颯太郎 Kentaro Hiraku

結の舟

「つながり」で広げる
未来の可能性



特別賞 東京都

稲松 謙太郎 Kentaro Inamatsu

株式会社ノッツ/SAN ~ Social Active Network
of outdoor education ~ 会長

アウトドアで育む、
児童養護施設に暮らす子どもたちの未来



特別賞 東京都・神奈川県・埼玉県・
千葉県・宮城県・岩手県

ジェフ・ジェンセン Jeff Jensen

NPO 法人みらいの森

後ろを向きながら前に走っている人



優秀賞 兵庫県

相良 育弥 Ikuya Sagara

淡河かやぶき屋根保存会「くさかんむり」

野外体験活動から
危機意識と人間育成を学ぶ



優秀賞 北海道

新野 和也 Kazuya Niino

認定 NPO 法人どころ野外学校

質の高い野外活動指導の
できる人材をつくる



優秀賞 神奈川県

西島 大祐 Daisuke Nishijima

鎌倉女子大学短期大学部准教授 /
NPO 法人東京都キャン協会 理事長

未来の「グリーンリーダー」を
日本から世界へ！



優秀賞 兵庫県・大阪府

バハラム イナル Bahram Enanloo

NPO 法人 Peace & Nature

笑顔のバトンタッチは
ずっと繋がっている



優秀賞 千葉県

堀 由美恵 Yumie Hori

一般社団法人開けたら海へ 代表理事

“ちょっとチャレンジ！”
を応援したい



U30賞 福井県

細川 和朗 Kazuro Hosokawa

NPO 法人自然体験共生センター 理事長 /
福井県キャン協会 理事

“生きる”をテーマにする
野外活動家



大賞 愛媛県

木名瀬 裕 Hiroshi Kinase

株式会社今治・夢スポーツ/ヒューマンディ
ベロップメント グループ長 / 『しまなみ野外
学校』エディケーションプロデューサー

和を成し人・組織の
可能性を切り拓く



特別賞 長野県

森 和成 Kazunari Mori

株式会社ライジング・フィールド 代表取締役 /
株式会社プロジェクトアドベンチャー・ジャパン
取締役営業統括

思いはただ1つ…
子どもたちの命を守ること。



特別賞 香川県

森重 裕二 Yuji Morishige

子どもたちにライジャケを！代表 /
庵治石細目 松原等石材店 3代目

幸せな大人の姿こそ
最高の教育！



優秀賞 奈良県

岡本 麻友子 Mayuko Okamoto

森のようちえんウィズ・ナチュラ 代表 /
合同会社 SOULS CEO

「刃火歩平穂育」と「かきくけコミットメント」で
「冒険智力」を育みたい



優秀賞 宮城県

塚原 俊也 Toshiya Tsukahara

くりこま高原自然学校 校長 /
OWLS (Outdoor Works & Lifestyle) 代表

すべての答えは、
自然と子どもにある！



優秀賞 神奈川県

星野 諭 Satoru Hoshino

移動式あそび場全国ネットワーク /
つむぎやさん 代表

子ども、自然、暮らし、教育を
つなげる体験プログラム職人



優秀賞 沖縄県

丸谷 由 Yu Maruya

一般社団法人ネコのわくわく自然教室
代表理事

「体験」が人を育てる
その体験の原点が「無人島」にある



優秀賞 兵庫県

山崎 清治 Seiji Yamasaki

NPO 法人生涯学習サポート兵庫 理事長 /
無人島学校 校長

50年続く未来への種まき
なんでも楽しめる豊かな心を



U30賞 東京都

井上 恵里 Eri Inoue

公益財団法人社会教育協会の社会教育
センター / ひの自然学校 担当ディレクター

「Ocean to all」を合言葉に
人と海の架け橋へ



大賞 沖縄県

星原 貴保 Hoshihara Takayasu

株式会社ナチュラルブルー 代表取締役 /
一般社団法人沖縄県美ら海教育学校 代表
理事

ちいさな命が教えてくれる、
生きることの面白さ



特別賞 北海道

斎藤 彦馬 Saitou Hikoma

さらべつ昆虫研究所 /
自然ガイド

心の中にふるさとをもつ
子どもたち・人づくり



特別賞 千葉県

篠原 準 Shinohara Jun

千葉県公立学校教員 /
富山学園 南房総市立富山中学校 教諭

生きもの豊かな里山を守る。



優秀賞 栃木県

遠藤 隼 Endo Jun

サンバの里自然学校 校長 / とき子ども
自然体験活動ネットワーク 共同代表

自然の楽しさと怖さを描くおじさん



優秀賞 愛媛県

久保 一平 Ippei Kubo

有限会社クロスポイント 代表取締役

人と自然が暮らしの
足元でつながるために



優秀賞 三重県

才賀 美奈 Saiga Mina

おさんぽの会ててて /
いっしょに子育て親育ちなないのわ

アウトドアの水先案内人は、
山河の料理人。



優秀賞 埼玉県

戸門 秀雄 Tokado Hideo

「郷土料理ともん」店主 /
漁撈民俗研究者

足下にある自然や人との
繋がりを楽しむことから



優秀賞 神奈川県

永井 巧 Nagai Takumi

一般社団法人そっか 代表理事

“ちょっとチャレンジ！”
を応援したい



U25賞 愛媛県

服部 真帆 Hattori Maho

株式会社行雲 / 株式会社今治・夢スポーツ
ヒューマンディベロップメントグループ

選考委員長 からのメッセージ

MESSAGE FROM THE SELECTION
COMMITTEE CHAIRPERSON

選考委員長

竹内 洋岳氏

歴史を紐解けば、紛争や社会混乱、自然災害の後に、人々は自然への回帰を求めてきました。それは、破壊されていく自然を目の前にしたとき、そして、自然の脅威を見せつけられたときほど、おのずと人々は自然と向き合い、その豊かさとその人智の及ばない力に惹きつけられていくのです。まさに、いま、我々は、その渦中にあり、JOLAのリーダーたちの活躍が期待される時です。JOLAの場で出会えたファイナリストの皆さんは、驚きと、時には、その生き様と眼差しに、ちょっとした嫉妬を感じるような唯一無二の存在であり、私自身が皆さんから多くを学び、そして、皆さんを前にして、襟と身をただす機会になりました。深く尊敬と感謝しております。JOLAは、担当者、選考委員の先見の明と先見の識を広く持ち寄り、これからの野外教育の将来へのリーダーに光を当て、自身と誇りを持って世界に知らしめる使命と責任があります。私が審査委員長を務めた3年間は、ちょうどコロナ禍でもありながらも、それ故に、社会が大きく変化するきっかけでもありました。歴史を紐解けば、社会混乱や自然災害の後に、人々は自然への回帰を求めてきました。これから、まさにJOLAのリーダーたちの活躍が期待される時です。委員長を務めさせていただいたことは、誇りであり、光栄でした。そして、JOLAを支えるスタッフの方々、選考委員の方々に深く感謝し御礼を申し上げます。



選考委員とスペシャルアドバイザーのご紹介

INTRODUCING THE SELECTION COMMITTEE AND SPECIAL ADVISORS

選考委員



竹内 洋岳氏

プロ登山家 / 立正大学客員
教授 / 株式会社ハニーコミュニ
ケーション所属

選考委員長



指出一正氏

株式会社ソトコト・プラネット代
表取締役 / 『ソトコト』編集長



曾根原 久司氏

NPO 法人えがおつなげて
代表理事



高野 孝子氏

NPO 法人エコプラス代表理
事 / 早稲田大学教授 / 立教
大学客員教授



成田 裕氏

NPO 法人ガイア自然学校代
表 / 一般社団法人日本アウト
ドアネットワーク代表理事



野口 和行氏

慶應義塾大学教授

スペシャルアドバイザー



岩瀬 直樹氏

軽井沢風越学園校長・園長



佐藤 初雄氏

NPO 法人自然体験活動推進
協議会代表理事



澁澤 寿一氏

NPO 法人共存の森ネットワ
ーク理事長



速水 亨氏

速水林業 代表 / 株式会社森
林再生システム 代表取締役 /
FSC ジャパン副代表



星野 敏男氏

明治大学名誉教授



二宮 かおる氏

NPO 法人日本で最も美しい
村連合副会長



三浦 雄一郎氏

プロスキーヤー / 冒険家

あなたとできること

JOIN US

世代を超え、立場を超え、
枠組みを超えて
みんなが広く緩やかにつながれる
JOLAに力を貸してください。
JOLAはアウトドアでの
人づくりの技を生かして、
地域をつくり、自然環境との
関係をつくり、
日本人としての心を育てる
そんな取り組みを
進めていきたいと考えています。

JOLAは、スポンサー・サポーターの皆様からのご協賛で運営している任意団体で法人化をめざしています。運営委員はボランティアで活動をしています。
これまでの、アワードを通じた表彰をベースに、ファイナリストの知恵や経験を活かし、各地で活動する素晴らしい仲間とつながり、それぞれが抱える課題をみんなの課題として知恵を出し合い、アウトドアの手法を使って未来をつくりだしたいと考えています。

そのために、より多くのみなさまとのつながり、さらなるサポートを求めています。互いに支援しあえる存在として、私たちの理念に賛同いただけるなら、「一緒に」未来を描いていきましょう。

ご支援ください

サポーターとして年間登録をお願いします。法人様のSDGsや社会貢献活動につながります。また、私たちがお手伝いできることもたくさんあります。ファイナリストの紹介、コラボ事業、フリーペーパーでのPR、みんなの知恵袋での課題解決、活動応援商品・サービスのご提供、オリジナル研修、プログラムのご提供など、「人づくり・地域づくり」のパートナーとして、ぜひご相談ください。

仲間になりませんか

JOLAにエントリーするだけでなく、活動そのものをご支援ください。個人サポーターとして年間登録ができます。「自分の活動もソーシャルアウトドアかな?」「アウトドアで社会貢献したい」JOLAに共感くださるみなさんからよくいただく言葉です。あなたにできることが、たくさんあります。ぜひ、私たちと一緒に楽しむための「人づくり・地域づくり」を盛り上げませんか?

ご興味を持っていただけたらお気軽に裏面記載の事務局までお問い合わせください。

JOLA/SOLA 登録フォーム

JOLA/SOLAでは年間を通じて、さまざまなプロジェクトを立ち上げます。それらのイベント情報が必要な方は下記のフォームにご登録ください。不定期ではありますが随時インフォメーションさせていただきます。ご興味を持っていただけたらお気軽に裏面記載の事務局までお問い合わせください。



JOLA 運営委員会の ご紹介

GROUP INTRODUCTION

VISION

私たちの描く未来

人も自然も
いろいろとどりで
すこやかな社会をつくり
次世代へ渡す。

MISSION

私たちの取り組み

未来のための
人づくりに取り組む
ソーシャル
アウトドアリーダーに
光を当てる。

7VALUES

私たちが大切にしたいこと

1. 今を大切に、未来を見据える
2. リアルな体験や場を大切にする
3. 自分の個性を大事にする
4. 他人との違いを楽しむ
5. 互いを応援しあう
6. 自らの「アウトドア」に一步踏み出す
7. 学びを可視化し、みんなと共有する

運営委員長

山田俊行(トヨタ白川郷自然学校 学校長)

運営委員

加納麻紀子(NPOくまの木里の暮らし事務局長) / 佐藤繁一(NPO法人国際自然大学校統括本部長) / 砂山真一(一般財団法人ポジティブアースネイチャーズスクール代表理事) / 高瀬宏樹(国立中央青少年交流の家主幹) / 中澤朋代(松本大学非常勤講師/NPO法人日本エコリズムセンター共同代表) / 野口和行(慶應義塾大学教授) / 原田順一(みんなのアウトドア代表/一般社団法人日本アウトドアネットワーク事務局長) / 増田直広(鶴見大学短期大学部講師) / 森和成(株式会社ライジング・フィールド代表取締役) / 山路歩(日能研本部キャンブ運営室、NPO法人体験学習研究会代表理事) / 山田亮(北海道教育大学岩見沢校アウトドア・ライフコース教授)

事務局

[事務局長] 佐藤繁一 ※運営委員兼務 / 土屋文乃(NPO法人自然体験活動推進協議会) / 和田徳之(株式会社和大地代表取締役)